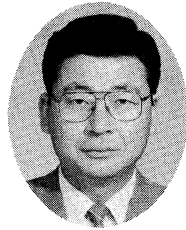


「趣味」を生かす

渡辺金作



本校に四月赴任し、広報委員会のメンバーの一人になった。すぐ委員会が開かれ、委員長さんから、「先生、これお願いします」と、手渡された茶封筒を開けてみると、プロフィールを書く欄があり、中に「趣味」について書いて下さいと、書かれてあった。

これには、「ウーン」と、うならずにはいられなかった。何を書くか迷ってしまった。迷うほど「趣味」が豊富にあるということではない。以前はいつも「趣味」は「書道」と書いていた。それは小学校から大学時代にかけて「書」に親しんできたからであって、特に大学在学中、「毎日書道展」に入賞したことの喜びが、そう自分に書かせてきたように思われる。

今回は、考え迷った末、「サッカー」と書いた。実は、わたしは、人も驚くほどの運動音痴で、「サッカー」を

「趣味」と書ける程ではない。

しかし、「サッカー」が好きになった。その「サッカー」との出会い、福島市内のS校に赴任した時である。S校は、市内でも屈指のスポーツの盛んな学校であった。当時、サッカー部の顧問の先生は、体育の先生であったが、わたしが「若い」という理由で、サッカー部を担当することになった。

翌日になって、このサッカー部が、前年度には県大会で三位に入ったことを同僚から聞かされ、足がすくんだ。運動のダメなわたしに、このサッカー部を率いていく力があるのだろうか。悩みつづけたが、やるしかなかった。

毎日、暇を見つけては、サッカーに関する本を読んだ。

しかし、不安が先だち、頭にはそう入らなかった。ルールも知らないままにグラウンドに立ち、気合だけは掛けた。

幸運にも、その年、県大会は前年に引き続き三位になった。翌年も、子どもたちと父兄の方々の熱い声援で三位に入り、顧問を受け継いで、二年連続上位入賞を果たせた。

S校を去る日、子どもたちと、額と額を合わせ、別れがつかなくて泣いた。文集に、「先生は、サッカーを知らないように、いつも本を手にし、サッカーを覚えようと頑張っている。その姿をみて、自分たちも頑張った」と、一人の生徒が書いていた。

サッカーができないことを見抜かれ

たことより、自分のその姿を見て、頑張ってくれた生徒がいたことが、うれしかった。

現任校で、父兄の方に、「サッカーをやっていたんですか」と聞かれるとき、「やっていません」と答えても、信じてくれなかった。子どもたちも、

まじめな顔をして、わたしが話すことばを、「はい」、「はい」と、大きな声を出して聞いてくれる。そのたびに、うれきさい気持ちが出てくる。「趣味」サッカーを生かすつづけた。

(双葉町立双葉中学校教諭)

県立図書館からのお知らせ

◆第二回ふるさとふくしま講演会

△ふくしまのざつと昔▽

「おはなしおばさん」として、全国各地で子どもたちに昔話を語り続けている、横山幸子さんにおいでいただき、昔話との出会いについてお話いただきます。

また、実際に心に残る昔話のいくつかを語っていただきます。

くわしくは次のとおりです。どうぞ皆さん、昔話のなつかしい時間をお過ごしください。

・とき 平成元年十一月五日(日)

午後二時～三時

・ところ 福島県立図書館 講堂

※ 入場は無料です。

◆読書活動指導者養成講座

講師に、調布市立図書館の黒沢克朗氏をお迎えして、「子どもと本の出会い」というテーマで、講義と読み聞かせなどの実践を行います。

理論と実践の両面を構えている図書館員として、高い評価を受けている黒沢氏のお話をこの機会にぜひどうぞ。

・とき 平成元年十一月二十一日(火)

午前十時三十分～午後三時

・ところ 福島県立図書館 講堂

※ 参加は無料です。十一月十日(火)まで、電話等により申し込んでください。

・申込先 福島県立図書館 振興課

〒960-0000 福島市森合

字西養山一番地

TEL 〇二四五―三五―三二一八